

令和4年度 東京都教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価
(令和3年度分)の実施について

1 目的

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、毎年度、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- 点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することにより、都民への説明責任を果たし、都民に信頼される教育行政を推進する。

2 これまでの実施方法と課題

(1) 実施方法

- ・東京都教育ビジョン(第4次)の体系に基づく主要な事務事業を対象に実施
- ・事業の進捗状況等を取りまとめ、教育に関する有識者の意見を聴取

点検及び評価に係る有識者(令和2~4年度)

デジタルハリウッド大学大学院デジタルコンテンツ研究科 教授	佐藤 昌宏
国立教育政策研究所初等中等教育研究部 総括研究官	白水 始
国立教育政策研究所 教育政策・評価研究部長	渡辺 恵子

(2) 課題

事業ごとに実施しており、全体としての進捗や、ビジョンが目指す方向性の達成度を把握しにくい。

令和3年度 有識者の意見から

- ・多くの事業が並行して進められているため、進捗が分かりづらい。事業の進捗を都民にも開示、理解を求める意味でも、ひと目で進捗が分かる工夫をすべきである。
- ・達成度をグラフやアイコン化し、どこまで進捗しているのかを明示するとよい。
- ・点検及び評価を、各事業の改善につながり、都民が見ても分かりやすい資料にすることを目指してほしい。分かりにくさの原因の一つは、それぞれの事業の成果として示されている指標の種類が大きく異なることにあるので、整理・改善が必要。

3 令和4年度に実施する点検及び評価(令和3年度分)の改善

- ビジョンの基本的な方針ごとに、点検及び評価の指標を設定し、主要な施策や事務事業の取組状況を検証する(指標の案は別紙参照)。
- 指標の推移を経年で分析し(～令和5年度)、政策の評価や事業の改善に活用する。

別紙 令和4年度東京都教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和3年度分）における指標（案）※一部抜粋

	東京都教育ビジョン（第4次）	指標（案）
子供の「知」「徳」「体」を育み、 社会の持続的な発展に貢献する力を培う	【方針1】全ての児童・生徒の確かな学力を育む教育	全国学力・学習状況調査において、平均正答率が全国平均を上回っている設問の割合
		全国学力・学習状況調査における平均無解答率
	【方針2】社会の持続的な発展を牽引する力を伸ばす教育	「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答する児童・生徒の割合
		授業でのICTの活用頻度（2日に1回以上活用）
	【方針3】グローバルに活躍する人材を育成する教育	生徒の英語力の向上（中学校 CEFR A1 レベル（英検3級）以上、高等学校 CEFR A2 レベル（英検準2級）以上の生徒の割合）
		生徒の英語を「話す力」の向上（中学校英語スピーキングテスト）
	【方針4】夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育む教育	「将来の夢や目標を持っている」と回答する児童・生徒の割合
特別支援学校高等部生徒の企業就労率の向上		
【方針5】豊かな心を育て、生命や人権を尊重する態度を育む教育	「自分には、よいところがある」と回答する児童・生徒の割合	
	「インターネット利用時のトラブルや嫌な思いをしたことがある」と回答する児童・生徒の割合	
【方針6】健やかな体を育て、健康で安全に生活する力を育む教育	運動やスポーツをすることが好きな児童・生徒の割合	
	現在の睡眠時間は十分だと感じている児童・生徒の割合	
【方針7】オリンピック・パラリンピックの精神を学び、育む教育	「学校2020レガシー」の設定（教育課程に位置付けている）	
学校、家庭、地域、社会が相互に 連携・協力して子供を育てる	【方針8】生徒の多様なニーズと時代の要請に応える『都立高校改革』	都立高校における大学の理系学科（理学、工学、農学、保健、家政等）への進学率
		生徒の英語力の向上（中学校 CEFR A1 レベル（英検3級）以上、高等学校 CEFR A2 レベル（英検準2級）以上の生徒の割合）※再掲
	【方針9】これからの教育を担う優れた教員の育成	教員のICT活用指導力に関する設問に、「できる」・「ややできる」と回答した教員の割合
		東京都教員採用選考の倍率
	【方針10】教員の負担を軽減し、教育の質を向上させる『働き方改革』	教育職員の時間外労働の状況
		TEPROによる学校への外部人材の紹介数
【方針11】質の高い教育を支える環境の整備	学校の学習用ネットワーク環境（通信の安定・速度など）について、「満足」・「やや満足」と感じている割合	
【方針12】家庭、地域・社会と学校とが連携・協働する教育活動	「地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行った」と回答する学校数	